

知っていましたか?

静岡の校歌は5番まで

40年卒 杉山正美

26年卒の小林重雄さんより貴重な資料をいただいた。それは「静岡の校歌は5番までである」というもの。さらに昭和19年から終戦まで、1番の「波諧調」(なみメロディー) 2番の「白線」(ホワイトライン) 4番の「我商神の」(われへロメスの) のカタカナの部分は敵国語とすることで、強制的に歌詞を変更させられたとのことだった。

小生は40年卒。校歌が5番までであることは全く知らなかった。静岡在住の同期生数人に確認したが、全員が「3番までに決まってるだろう」という答えで、中には「勝手に校歌の歌詞を増やして混乱させるな!」とおしかりを受ける始末。小林さんに電話で確認した際「我々の時代は5番までが当たり前」とお聞きした。いつから3番までになってしまったか・・・?。5番までの歌詞と強制的に変更された部分(赤色で表示)を紹介しよう。

1. 波諧調を奏づれば 琥珀とけゆく駿河湾
(仰く高嶺の雄々しさや 流れて止まらぬ安倍川の)
あまぎる伊豆の連山に 流転の相を觀じつつ
(無限の黙示慕いつつ 集いて学ぶ健男兒)
橋かほる丘の上に 五百若草は茂るなり
2. 朝芙蓉の精を吸い 夕紅寛の気をば吐く
雄々しからずや白竜の 光眩きSCに
白線ふたすじは 剛健進取の象徴ぞや
(戴く二條の白線(はくせん)は (なり))
3. 万架の桜咲き競い 千古の月の澄める時
偉人の事跡も偲ばれて 若き血潮ぞ滾りくる
戦わかな力充つ 魔神の叫び君聞くや
4. 時去り時は施りきて 璞玉光身に添えば
我商神の翼かり 翔る坤与の市座に
(朝日に匂う桜花 我が国体に類いつつ)
SCの旗翻し 四海の富を集めなむ
5. ああ神洲の益荒雄や ああ嶽南の健兒等よ
天孫の使命畏みて 民族のため国のため
永劫の光を仰ぎつつ 万里の船かちとらん



全日本武術太極拳選手権大会に挑んで

31年卒 小田巻 登

三重県選手権大会で24式太極拳(59歳以上の部)に優勝し、全国大会の出場権を獲得。平成24年6月に東京体育館で行われた、第29回全日本武術太極拳選手権大会に出場が決まる。本年3月春分の日あたりから早朝練習を始めた。午前6時というときまだ暗い寒い。毎日3時間程の練習である。前回出場した時には気分よくやり過ぎて時間オーバーで減点された苦い経験があるので、先ず6分以内に収まるように身体に覚え

させるため何回も何回も練習をした。時間ばかり気にしていると、技は味も素気も無くなる。太極拳は見てくれだけでは駄目「味」が大切である。気候が良くなるに従い、味を出すべく事に集中して練習を重ねる、6月に入り愈々大会の日も近づき心は躍る。

開催場所は高校3年生の時に静岡県代表として全国バレーボール選手権大会(天皇杯)に出場した時の憧れの場所である。

いよいよ大会当日生憎の雨で開催前に身体慣らしに軽く練習を予定していたが身体を温める事も儘ならず、第一組4番目の出場の為着替えを済ませて試合場へ急ぐ。14m×8mのコートに2人が入り私の相手は宮城県代表、採点は5人の審判員で最高点と最低点をカットして残りの合計点の平均が個人の得点となる(10点満点から減点法)。適度の緊張の中あがりはしなかった身体は気持ち良く動く無私の心境の内あつと言う間に終了。懸案の6分以内に無事収まった「やれやれ」である。私の成績は出場選手中の真ん中ぐらいであった。

来年は、もう少し上を目指して精進する心積りです。(来年の事?鬼が笑っている)

